

学校目標・経営方針	心のゆたかな人間を育てる。(社会で活躍できる、地域に貢献できる人づくり)
-----------	--------------------------------------

山梨県立富士河口湖高等学校校長 加藤 幸一

本年度の重点目標	1 個別最適な学びにつながるBYODの活用
	2 将来の進路選択に向けたキャリア教育の充実
	3 文武一体による全人教育につながる部活動の充実
	4 豊富な対話活動によるコミュニケーション能力の育成

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	個別最適な学びにつながるBYODの活用	①授業においてICTを活用し、わかりやすく、学習意欲を高める工夫に努める。	管理職との面談(教科指導) 相互授業参観でのコメント交換
		② 授業や総合的な探究の時間において、調べ学習やレポート作成、プレゼンテーションなど、生徒がICT端末を効果的に活用できるよう努める。	相互授業参観と学校評価アンケート(教員)
		③ Classiの学習動画やAIドリルなどにより、生徒が個々の学力や学習ペースに応じて家庭学習などの自主的な学習に取り組むことができるよう努める。	学校評価アンケート(保護者、教員、生徒) 授業アンケートの実施
2	将来の進路選択に向けたキャリア教育の充実	① 調べ学習や講演会、校外学習などを通して、将来の職業や高校卒業の進路について考える機会の充実に努める。	学校評価アンケート(教員、生徒)
		② 個に応じた適切な進路選択ができるよう、進路相談やカウンセリング、三者懇談などの充実に努める。	学校評価アンケート(保護者、教員、生徒)
3	文武一体による全人教育につながる部活動の充実	① 学習との両立が図れるよう、メリハリのあるバランスのとれた活動計画を立て、見通しを立てて活動するよう努める。	学校評価アンケート(教員、生徒)
		② 学習活動への取り組みと部活動への取り組みが相乗効果をもたらすよう、生徒が主体的で意欲的に学校生活が送れるよう努める。	学校評価アンケート(教員、生徒)
4	豊富な対話活動によるコミュニケーション能力の育成	① 朝読書や読書会などを通して、ゆたかな心や論理的思考力を育むよう努める。	学校評価アンケート(教員、生徒)、事前事後アンケート
		② 授業や総合的な探究の時間(KIP)において、主体的、対話的深い学びができるよう努める	各成果発表会等

年度末評価(2月 7日現在)		
自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
・授業におけるICTの活用については、各教員が改善に努めた結果、活用頻度が高くなったため、生徒や保護者からの評価が上がっている。 ・BYODの利用について、授業等で教員の積極的活用しているため、生徒も活用する場面が多くなってきた。 ・Classi活用を促している結果として、生徒や保護者からの評価が上がってきている。しかし、Classiの学習機能においては、教員の利活用は低い。	B	・授業等においてICTの利活用は教員、生徒とも高くなってきた。継続的な授業改善を実施していきたい。 ・教員において、Classiの学習機能を授業に利活用している教員が少ない。全体研修や公開授業を利用して、ICTの授業展開としてClassiの学習機能を活用した授業研修を取り入れ、教員への意識づけを促したい。
・全体的に生徒、保護者、教員とも評価は高く推移している。調べ学習や講演会、校外学習などが、生徒の進路に対する意識や興味を高めることになったと考えている。 ・各学年の発達段階や意識の段階に応じて、進路指導を実施してきた。進路行事に関しては、生徒、教員とも高い評価である。 ・保護者の評価が生徒、教員と比較するとやや低い。	A	・進路に対する意識や準備が着実に進んでいると思われる。この方向性を今後も維持して、さらなる向上を目指したい。 ・保護者の評価がやや低いので、保護者の不安や期待に応えるため、さらなる情報提供や支援の強化を図りたい。
・年間活動計画を部活動ガイドラインに沿って作成し、部活動では概ね計画通りに実施してきた。その結果、部活動と学習のバランスが取れてきたと思われる。 ・どの部活動も生徒が主体的に練習計画などにかかわることができた。本校の校是である「文武一体」が概ね実現できたと考えている。	A	・引き続き短時間でも効率の良い練習計画を実施していきたい。 ・勝利至上主義からの脱却を教員間でより一層共通意識をして統一し、調和のとれた人格形成を目指していきたい。
・朝読書が落ち着いた学校生活の一助になっている。今まで読書習慣が少なかった生徒が、本と向き合うようになったものの考え方を学ぶ機会を得たようである。 ・探究活動のグループにおける取り組みにより、生徒一人ひとりが自分の役割を確認し、課題解決のために協力的な活動ができるようになってきている。生徒自身が設定した課題をテーマとして探究しているため、主体的に活動していて生徒のキャリア教育にも影響してきている。	A	・今後も朝読書を活用し、生徒が本を読む習慣づくりや深い学びへつなげていきたい。 ・探究活動は、地域のことを知り、課題解決を考え発表し、最終的には、生徒自身のキャリア教育へ繋げて進路選択の一助にすることが目的の一つでもある。今後もより効果的な探究活動を実施していきたい。

学校関係者評価	
実施日(令和7年2月21日)	
評価	意見・要望等
3	・IOTは、個々のスキルによるものが多いと思われるが、全体的な底上げはできているように感じている。IOT活用を進めるべきところとそうでなくても良いところを見極めて利活用し、個別最適な学びの推進を期待したい。 ・生徒、保護者がIOTの活用による授業の多くの有効性を感じていることは、教員の努力だと高く評価できる。
4	・キャリア教育においては、明確な目標を定め多くのメニューを生徒たちに提供し、力強い展開をされている。とりわけ、進路選択に関連し、生徒からの高評価があることは特筆される。 ・多くの工夫された教育活動を実施している。保護者には必ずしもそれらを知らない場合もある。あらゆる媒体を駆使し、継続的な方向に努め、知ってもらふ努力や工夫を今まで以上にしていきたい。
4	・学習と部活動との両立をし、学校生活を楽しみたいと願う地元の生徒が河高を目指していると感じている。メリハリがあり、バランスがとれていると思われる。 ・全体的に主体的、意欲的に学校生活が送れていると思われる高く評価している。 ・部活動では、外部の指導者の導入により、教師の負担を抑えつつ、それぞれの部活動の活性化に繋がるのではないかとと思われる。
4	・KIPを通じて各学年それぞれが共通の課題において理解を深めたり、議論をすることで自然とコミュニケーション能力の向上がはかれると思われる。 ・三か年を見通し一貫したKIPの「地域課題」をテーマとする取組は、時宜を得た「探究」に値するものと思われる。「生徒一人ひとりが自分の役割を確認し、課題解決のために協力的な活動ができるようになって」とあり、成果の確実な反映と感ずる。この「地域課題」での学びから刺激され、将来、この地域で活躍する人材を育成して欲しい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。